

村井：今日は、岸田政権の目玉政策「子育て支援の抜本拡充」や「こども家庭庁創設」を担う小倉少子化担当大臣にお見え頂きました。

小倉：村井さんとは当選同期、年も一つ違いで、永田町で一番の友人です。

村井：今から12年前。小倉さんが日銀を退職し、私も財務省を辞めて、新橋の居酒屋で、一緒に日本の政治を変えようと誓いあいましたね。

小倉：あれから12年ですか。我々も初当選から10年が経ち、40代になって、いよいよ真価が問われる時期になってきました。

出生数80万人割れの衝撃

村井：小倉大臣は、当選同期の中でいち早く大臣に就任されました。あらためて、この国の最大の危機といってよい、少子化の問題についてお話し頂けますか。

小倉：まさに少子化は我が国最大の危機です。我々が子供の時は、一学年160万人でしたが、2022年の出生数は、コロナの影響もあり、80万人を割り込む見通しです。

村井：テスラの経営者イーロン・マスクの「日本はいずれなくなる」という衝撃的なツイートもありましたね。

小倉：実際、2021年の合計特殊出生率は、1.3ですが、出生率が1.25にとどまると、2065年には日本人が8213万人になるという推計もあります。今のペースで少子化が進むと、経済社会の活力が大きく失われてしまいます。

村井：少子化対策の必要性は、ずっと言われ続けており、少子化担当大臣も、小倉さんで、22人目です

が、改めてこの問題に本気で取り組まないといけません。

小倉：これまでも少子化対策は拡充してきました。我々が議員に当選し、第二次安倍政権がスタートして以降、少子化対策の規模は、平成25年度の3.3兆円が、今年度は6.1兆円と倍増しています。保育の受け皿は241万人から323万人まで拡大し、待機児童数も平成29年度の2.6万人から3千人まで減少しました。

村井：2019年からは、幼児教育・保育の無償化もスタートしました。我々も、子育て支援は、ずっと取り組んできたテーマです。

小倉：そう。ただ、結果的には、コロナという不運もあって、成果が出ていません。

こども家庭庁の創設 - 子育て支援の一元化 -

村井：少子化の原因は様々ですが、実際に子育て世代の声を聞くと、100人100様の声があるというのが私の実感です。「教育費が高い」、「男性育休をとりやすくすべき」、「住居の問題で、もう一人は厳しい」などの声や、そもそも「結婚の時期を早める必要」、「将来への漠然とした不安が問題」という専門家の指摘もあります。こうした声に、一つひとつ丁寧に対応していく必要があります。

小倉：はい。もちろんそれぞれの人生は、自分で決めるべきものだし、結婚しない・子どもがいない人生だって、尊重されるべきです。ただし、急速な少子化が、経済社会に与える影響が甚大である以上、少子化の原因を洗い出して、子育てしやすい環境を徹底して作ることが大切です。

村井：そうした問題意識で、今年4月に創設されるのが、こども家庭庁です。その初代大臣に就任予定なのが、小倉さんですね。

小倉：はい。こども家庭庁は、これまで様々な省庁にまたがっていた、こどもに関わる施策を一元的に担う組織です。例えば、幼児教育は文科省、保育は厚労省、少子化対策は内閣府、児童虐待は厚労省・法務省などに跨っていますが、今後は、こども家庭庁が司令塔として総合的に取組を進めます。



内閣府少子化担当大臣

小倉将信

内閣総理大臣補佐官

村井英樹

0～2歳児に焦点を 当てた支援！

村井：子育て支援拡充のスタートとして、今年4月から、出産一時金を50万円に大幅拡充します。今後、どのような取組を進めますか。

小倉：まずは比較的支援が弱いとされてきた「0～2歳児に焦点を当てた包括的支援」を拡充します。

村井：確かに0～2歳児が一番手がかかる割に、幼児教育保育の無償化も、3～5歳児が対象です。

小倉：具体例でいうと、0～2歳

児を育てている親御さんで、まだ保育園には通っていないけど、ちょっと子どもを預かって欲しい時に、「一時預かり」サービスの利用を保証するなどの取組を進めたいと思っています。

学童保育の拡充も！

村井：小1の壁の問題もあります。幼保小連携を進めることは勿論ですが、学童保育も抜本的に拡充する必要があります。子供も、小学

校に入って環境が変わると心身ともに負担が生じます。学童保育が、学校の勉強もフォローしたり、快適な居場所を提供してくれるのは大きい。ただ、現実には、施設の老朽化や指導員の待遇改善といった課題があります。

小倉：村井さんは、学童保育制度の拡充に向けた議論をリードされておられます。おっしゃる通り重要な課題であり、こども家庭庁でもしっかり取り組みます。

村井：全国の小中学生の8.8%が発達障害というニュースも出てい

ましたが、発達障害や病児保育の子供達への対応も極めて重要です。小倉：はい。これまでも、特別支援教育の充実を図ってきましたが、1割の生徒が何らかの困難を抱えていることを前提に、学校全体の支援体制構築を進めます。

百人百様の課題に 一つひとつ挑む

村井：その他にも、児童手当の拡充や育休取得促進など、子ども政策で、拡充・改善すべきものはまだまだ多いです。

小倉：そうなんです。近年こども予算は増えていますが、少子化対策は欧州諸国の半分程度、教育予算もOECDの中で最低水準です。これでは、百人百様の子育て世代のニーズに応じた施策の拡充はできません。そこで、岸田総理のリーダーシップの下、こども予算の倍増に取り組んでいきます。

村井：岸田総理は、急速な少子化に、今回がラストチャンスとの思いで、思い切った施策を実施する覚悟です。夏には、こども予算の倍増に道筋をつけます。小倉大臣には、子育て世代の声をくみとり、大胆に政策を進めて頂くようお願いします。

子育て世代の 代表として

小倉：はい。私の一番近くで、子育て真っ最中なのが村井さんです。「子育て世代の代表」という言葉が一番似合う人です（笑）。実際、国会議員で、小さいお子さんを3人子育て中って、ほとんどいません。リアルな悩みや気づきをこれからも教えてください。

村井：うちは、7歳、5歳、3歳の三人息子ですが、実際に子育てしてみて気づくことって本当に多いです。「ボールで遊べる場所って意外とないんだな」とか。あとは、パパ友と話す面白い。子どもが増えない理由が見えてきます。これからも、子育て世代の目線に立った支援策の拡充に取り組んでいきたいと思います。

首相官邸と これからの政治

小倉：村井さんは、誰よりも若く総理補佐官になって、日々官邸中枢で大変そうです。現代政治の一番大切なポイントは、首相官邸をいかに機能させるかです。

村井：首相官邸では、これまで見えていなかった「新しい景色」が見えました。官邸内で働いている人は意外と少ないんです。政策に関わるのは、総理・正副官房長官・総理補佐官・あとそれぞれの秘書官、計数十名しかいません。

小倉：数十名で、数万人の霞が関をマネージしなければなりません。

村井：その通りです。簡単ではありませんが、山積する課題の一つひとつ道筋をつけて、政治不信を少しでも払拭しなければとの思いです。お互い初心を忘れず、持ち場持ち場で汗をかいていきましょう。



3人の息子とピクニックの様子